

新風

新潟の地に移り住んで

上越教育大学長

林 泰成



私は、福井県あわら市に生まれ育ちました。高校を卒業すると同時に京都に移動し、19年間をその地で過ごしました。そして、37歳のときに、新潟県上越市に移住し、上越教育大学で仕事をすることになりました。それから約25年が経ちますが、今では、この地で住宅を購入して住んでいます。

生まれ故郷には格別の思い出があるとはいえ、しかし、18歳までしか住んでいませんので、お酒や食べ物の美味しい店など、人から尋ねられてもまったくわかりません。知り合いから福井のお店を尋ねられると、今は福井市内に住んでいる妹に電話して聞きます。

また、いつの頃だったか、出身大学の同志社大学を訪ねてみると、新しいビルがいくつも建っており、学生食堂はおしゃれなレストランのようで、自分が学んだ大学という感じがまったくなくなりました。木造の校舎で扇風機をかけて汗を拭いながらゼミをしたあの頃がなつかしいと思うようになりました。

この4月からは上越教育大学長を務めることになりました。上越教育大学は、学部よりも規模の大きな大学院があるとはいえ、学校教育学部だけの単科の小さな大学です。しかし、勤務年数が長いせいか、この大学への愛着が、そして上越の地また

新潟県への愛着が一番強くなっているように感じています。

私は道德教育の研究に携わってきました。道德では、郷土愛ということも教えることになっています。郷土が「生まれ育った土地」という意味なら、愛着をもってその地にあこがれるということは自然な感情であるように思います。しかし「人間いたるところ青山あり」とも言います。「青山」とは墓所を意味するようですが、自分がこの地に骨を埋める覚悟ができる場所もまた郷土と言えるのではないのでしょうか。

「山椒は小粒でもぴりりと辛い」ということわざもあります。この小さな大学から、地域の皆様のお力もお借りして、全国に向けて、いや世界に向けて、望ましい教育の在り方を発信していきたいと思います。

PROFILE

林 泰成(はやし やすなり)

1996年 上越教育大学助教授

2007年 上越教育大学大学院教授

2009年 上越教育大学附属小学校長

2013年 上越教育大学副学長

2021年 上越教育大学長

主著 『道德教育の方法：理論と実践』(放送大学叢書)

左右社、2018年。